



移植と除草剤について

いよいよ田植えの本番を迎えます。移植期においては、気温の不安定な時期が続くため、植え痛みが発生しないよう注意しましょう。また、除草剤の使用については、圃場条件により、使い分けることでより効果的に行えます。

移植は気温と深さに注意

移植期は平均気温が一四〜一五℃が最適であるため、五月中旬以降が安定した時期となります。移植時は、一〜二cmの浅水で一坪当たり五〇〜六〇株、植え付け本数三〜四本を励行しましょう。三cmを超える深植えは生育不良を起こす原因となるため、注意しましょう。

除草剤使用のポイント

除草剤は土の表面に処理層を作ることにより除草効果を発揮します(図1)ので、次のポイントに注意し作業しましょう。
①耕起・代かきは均平になるよう丁寧に行う。②畦畔からの水漏れがないよう畦塗り等補強を

行う。③除草剤散布後、七日間は排水せず給水を制限し、止水管理につとめる。④降雨が予想される際は散布を控える。

病害虫防除

移植前の育苗箱に施用することにより、病気や害虫が長期にわたり予防できます。イネミズゾウムシの被害により初期生育が遅れる水田や二カメイチュウの被害が多い圃場、また、いもち病が毎年発生する水田では箱施用薬により予防することが必要です。

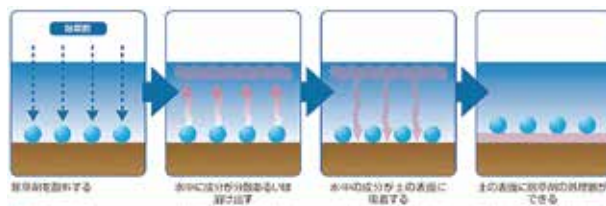
藻の発生について

①発生原因

晴天が続き、水温、地温が二〇〜三〇℃になると土壌の還元状態が強まり、有機物が分解し、微生物の活動が活発化して、藻類が発生しやすくなります。

②対策

新しい水に入れ替えるか、または、夜間落水して翌日灌水します。日中に落水すると、イネ基部の生長点に光が当たり、分けつが抑制されます。雨が降れば、藻は解消しますので、水の入れ換えは不要です。水温が三〇℃以上になれば、藻は死滅します。



土の表面に除草剤の処理層ができるので、水を外に流さないようにする(止水7日間)。

図1 除草剤効果の仕組み

3〜4日かけて土壌表面に吸着し、除草剤処理層を作ります。



図3 表層はく離



図2 アオミドロ

一回処理剤、初期剤には藻に効く薬も含まれているため、藻が発生するまでに除草剤の散布を行うと効果的。

野菜等の栽培に J A 栗東市園芸用レンタルハウス事業希望者受付中

J A 栗東市の組合員を対象に、施設園芸農家の育成と野菜、果樹等の生産振興を目的にビニールハウスの導入整備を図る事業です。

●対象物 ビニールハウス

●リース期間 5年

●要件 J A 栗東市の組合員で、利用作物は野菜・果樹・花卉等とし、水稻育苗には使用できません。また、出荷販売については J A を通じて行い、J A もしくは市関連施設への出荷が原則となります。

●申し込み J A 栗東市営農課にて所定の申請書により申し込み下さい。締切は5月末日です。

●事業内容 申請者の中から栗東市の予算範囲内で、新規事業者を優先とし運営委員会 (J A 営農課、栗東市農林課、大津南部農業・農村振興事務所農産普及課) により事業対象者が選定され、J A 選定業者に面積や仕様にかかる見積もり後、ハウスの設置を行い、J A と5年間のリース契約でハウスを利用します。栗東市より補助もあります。(基本設計ハウス部品代の25%以内)

●お問い合わせ J A 栗東市営農課まで(Tel.552-0575)

あなたのチャレンジ 家庭菜園



**連作障害を知って
作付計画をたてましょう！**

「連作」とは、同じ野菜を同じ場所ですべて作ること。キュウリやナス、エンドウなどは、同じ種類の野菜（同科の野菜・表1参照）を連作すると、生育が極端に悪くなったり枯れたりしてしまつてしまいます。これを、「連作障害」といいます。

● 連作障害の原因は、前に作つた野菜に寄生していた土壌中の病原菌（フザリウム菌）や害虫（センチュウ）土の肥料成分の極端な不均衡や、pHの変化・養分濃度の減少

● 作物の根から分泌される特殊な成分（毒素）などといわれていますが、このうちのひとつだけが原因とは限りません。また野菜の種類によっても、障害が出にくいものと出やすいものがあります。

● 連作障害を防ぐには、表2のように野菜によって畑を休ませる必要があります。しかし、そうすると限られた面積の家庭菜園では、野菜が作れなくなってしまう。そこで下の図のよ

うに、畑をいくつかに分け、種類の違う野菜を組み合わせて一定の順序で作るとよいでしょう（輪作）。

<p>1年以上休ませたほうがよいもの</p>	<p>2年以上休ませたほうがよいもの</p>	<p>3年以上休ませたほうがよいもの</p>	<p>5年以上休ませたほうがよいもの</p>
------------------------	------------------------	------------------------	------------------------

平成26年産米の県域共同計算結果について

代表銘柄上位等級の販売代金、流通経費、概算金、差引精算額を各項目別に表記致しております。

その他銘柄等級は最終販売金額を一覧表にて報告させていただきます。生産者の皆様におかれましては、ご理解いただきますよう宜しくお願い致します。

これからも共同計算にかかるコストの低減に取り組み、委託いただきました米穀の有利販売に努めてまいりますので、平成28年産米穀のJAへの出荷をお願い致します。施設販売課

平成26年産 JA米コシヒカリ1等 (単位: 円/60kg 税込)

区分	項目	金額
収入	販売代金	12,793
収入合計①		12,793
支出	流通・保管等に関する経費	
	概算払金等金利	73
	保管料・入出庫料	268
	保険料・監査委員会費用	1
	運賃	251
	安心・安全等検査費用	8
	集約保管経費	152
	精算・集荷・販売にかかる経費	
	広告宣伝経費	30
	その他(低温保管対策費・CE個体詰め対策費等)	12
	その他経費	
	県産米推進協議会等経費	3
	その他	133
検査経費	76	
手数料		
全農手数料	187	
JA手数料	454	
支出合計②		1,648
支払済概算金③		9,700
施設販売課販売努力④		551
差引精算額⑤=①-②-③+④		1,996
最終手取金額⑥=③+⑤		11,696

平成26年産米 個体・施設銘柄等級一覧 (単位: 円/60kg 税込)

1. うるち米	品種	等級	JA米	一般米
コシヒカリ	通常米	1等	11,696	-
	通常米	2等	10,548	10,224
	通常米	3等	9,468	-
キヌヒカリ	通常米	1等	9,804	-
	通常米	2等	9,156	-
	通常米	3等	8,076	-
日本晴	通常米	1等	9,235	-
	通常米	2等	8,587	-
	通常米	3等	7,507	-
秋の詩	通常米	1等	9,718	-
	通常米	2等	9,070	-
	通常米	3等	7,990	-
みずかがみ	全農基準米	1等	10,491	-
	全農基準米	2等	9,843	-
その他うるち	通常米	2等	9,131	-
2. もち米	品種	等級	JA米	一般米
滋賀羽二重糯	通常米	2等	16,973	-
	通常米	3等	15,893	-
3. 施設	品種	等級	JA米	一般米
コシヒカリ	通常米	-	11,456	-
	通常米	-	9,827	9,503
キヌヒカリ	通常米	-	9,258	8,934
日本晴	通常米	-	9,741	-
秋の詩	通常米	-	9,741	-

灯油・軽油の配達のご注文は☎552-0533・552-7534まで。(株)JA栗東市